

【目次】

1. アーカイブ No.28

連載「日本労働会館物語」第 25 回(社会主義研究会前史—『六合雑誌』と岸本能武太)

2. 4/03(木)～04(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・全イズミ労働組合・中執実践研修会 43 名
3. 4/08(火)～10(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・「正道塾②」17 名予定
4. 4/15(火)～17(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン伝承塾「枝垂桜③」6 名
5. 4/18(金) 団体見学・UA ゼンセン総合サービス部門・大阪ガス労働組合第 11 期 OGU ネクストリーダーセミナー8名
6. 4/21(月) 団体見学・JAM 秋田県南地域協議会 7 名

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.28

連載「日本労働会館物語」第 25 回 2011.04.11 発行の第 29 号に掲載

＜社会主義研究会前史—『六合雑誌』と岸本能武太＞

今回は宗教学者で、社会主義研究会結成に大きな役割を果たした岸本能武太(きしもと のぶた。1861～1944 年)を取り上げます。そして岸本が、惟一館竣工の明治 27(1894)年頃から社会民主党が結成された明治 34(1901)年頃までのユニテリアン教会機関誌『六合雑誌』に発表した論文や講演について紹介いたします。

岸本能武太は安部磯雄や村井知至らと同じ同志社の出身で、日本ユニテリアン弘道会副会長などを務めています。明治 31(1898)年に安部や村井らと社会主義研究会(後の社会主義協会、社会民主党)を結成しますが、今日では宗教学者として知られています。

彼は岡山藩士の子であり、同志社英学校卒業後、ハーバート大学に留学。明治 27(1894)年に帰国し、東京専門学校(現、早稲田大学)で比較宗教学を論じ、姉崎正治とともに比較宗教学会を設立しています。高等師範学校や日本女子大でも教え、主な著書に『比較宗教一斑』、『宗教研究』、『社会学』などがあります。宗教学者で東大教授の岸本英夫は彼の二男。

ところで岸本が教鞭をとっていた早稲田大学は「政治とバンカラ」のイメージが

ありますが、創成期に同志社出身の安部磯雄や大西祝、浮田和民らも教えており、意外と深い因縁があります。

2008年に早稲田大学で開かれた「早稲田と同志社―新島襄の弟子たち」展は、「早稲田大学、同志社大学の創始者、大隈重信と新島襄の親交と、本学の創成期に新しい学風の樹立に貢献した新島の愛弟子たち5人、家永豊吉、大西祝、岸本能武太、浮田和民、安部磯雄に焦点をあてる。彼らの直筆資料のほか、新島襄の『自責の杖』、日記、掛軸など貴重な数々を展示する。また、政治家としてだけでなく、深い理念を持って本学を創設した『教育者 大隈重信』も再認識できる展示」と謳っています(『早稲田ウィークリー』より)。

さて岸本の名前が最初に『六合雑誌』に登場するのは、帰国後まもない明治27(1894)年9月の同第165号「比較宗教学の研究に就いて」で、次いで同166号・167号に「宗教の起源」が、同169号・170号・171号に「宗教の基礎」が掲載されます。その後、『六合雑誌』第176号(明治28年8月)に「神学の教授法を論ず」、同179号に「宗教の研究と其信仰」が、そして同182号・183号・184号・185号・187号・188号に「宗教の分類」が連載されます。

その後、しばらくは岸本論文の登場はありませんが、新『六合雑誌』となった明治31(1898)年3月の第207号に「同志社綱領中の削除に就いて」が、また演説記録「浄汚観念発達の三時代」が同212号に、そして講述「進化論と宗教」が第215号・216号・217号・218号に連載されます。続いて『六合雑誌』第221号(明治32年5月)に「日曜日と成人の精神教育」が、同234号に「教育と宗教」が、同241号に「判断と決断」が掲載されます。

また、岸本は惟一館の「日曜演説」で演説も行っています。列挙すると次のようになります。明治32年7月9日・「近代の倫理思想」、12月10日・「教育と宗教」、同24日・「大工としての基督」、明治33年1月21日・「尊敬できる人」、5月13日・「靈魂の不朽に就て」、6月10日・「心持が大事」、7月8日・「宗教の本躰」、10月7日・「魔術宗教と道德宗教」、11月18日・「道德の範圍」、12月2日・「大西文学博士を追悼す」、12月16日・「正義と幸福の關係」、明治34年1月27日・「道德家の価値」、2月10日・「信仰の分析」、3月10日・「美に就て」、4月21日・「虚言は必要なりや」、5月19日・「楽天觀と厭世觀」、6月2日・「水一杯の貴き所以」、同16日・「三種の獨立」、同30日・「仕上げの罪」、7月14日・「正統派基督教々理の真意義」、9月22日・「余が根本信念」、同29日・「善の分析」、10月13日・「習慣と道德」、同27日・「金錢の貴き所以」、11月3日・「献身的結婚」、同10日・「観念と其伝達」。

安部磯雄や村井知至ほどではありませんが、岸本能武太がしばしば惟一館で「日曜演説」を行っていたことが分かります。但し、安部や村井のような社会主義的な演説ではなく、もっぱら宗教的なものだったことが窺えます。岸本は明治34年の社会民主党結成には参加していません。(文責 間宮悠紀雄)

2. 4/03(木)～04(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・全イズミ労働組合・中執実践研修会 43 名

今回は二部構成になっていました。まず第一部は「日本労働運動の 100 年余」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説、それにプラスして「流通労働運動の歴史概観」を 80 分受講した。特に大きな争議から学んだ労使関係における団体労働協約の重要性、また同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。加えて流通運動の歴史、流通同盟結成への動きと流通四団体へ分裂の結末。時は立ち 2012 年 11 月流通大同団結として UA ゼンセン結成。

第二部では、「新たな政策課題に挑戦、労働運動の改革」を 90 分受講。流通産業の誕生から成長期、変革期を説明。未来に向けた産業構造の変化とともに労働組合として成すべきことを講演。新しい労働運動と不変の労働運動、生産性運動三原則の変遷と今後の展開についてを講演した。

3. 4/08(火)～10(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・「正道塾②」 17 名予定

労働組合の組織の強化を目的に、人材育成の一助として、運動家としての人間性と品格を高め、労働運動の精神を正しく継承できるリーダーを育成するためです。年間、二泊三日を 3 回にわたり、11 講義、11 演習、5 視察から学びます。「歴史は未来の鏡である」「過去は変えれないけれど、未来は変える(創る)ことができる」という様に、①日本労働運動の 100 年余の歴史 ②流通労働運動の歴史と今後の課題～政策と政治課題～ ③民主的労働運動を探る・労組の役割と責任 ④労働組合が政治・選挙に取り組む理由 ⑤次代の流通労働運動が抱える課題とその対処法 ⑥生産性運動三原則とコーポレートガバナンス ⑦リーダーの条件とは何か～リーダーに今求められているもの～ ⑧流通産業の動向と労使の政策課題 ⑨政治・選挙 労働組合の必須項目 等を受講します。

第二回目は、ホテル東横イン(沖縄)にて開催。第二次世界大戦の終戦 80 周年であり、唯一の本土上陸決戦の行われた跡地を訪問。社会平和を信念とする労働組合、平和産業に従事する流通産業の全員で世界平和を考え、現代から未来を思考した。その後、藤吉館長から「日本労働運動 100 年余」を受講。続いて「民主的労働運動を探る」、「労働組合が政治・選挙に取り組む理由と公職選挙法の基礎知識」、「生産性運動三原則の変遷」、「民社党の歴史・百節不撓」などを受講しました。質問も活発に行われ、さらに二晩とも知識と懇親を深めました。

4. 4/15(火)～17(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン伝承塾「枝垂桜③」6名

ダイエーユニオンの伝承塾「枝垂桜」の第二期がスタートしました。開催趣旨は、労働組合の組織の強化を目的に、運動家としての人間性を高め、労働運動の精神を正しく継承できるリーダーを育成するためです。年間、二泊三日を4回にわたり、15講義、12演習、7視察から学びます。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ。」あるいは、「歴史は未来の鏡である。」という様に、①日本労働運動の100年余の歴史 ②日本の労働運動から見た流通労働運動の歴史 ③株ダイエーの激動期における労組の役割と責任 ④労働組合と政治の関わり ⑤次代の流通労働運動が抱える課題とその対処法 ⑥民主的労働運動を探る・労組の役割と責任 ⑦実践できるリーダーシップ論⑧生産性運動三原則とコーポレートガバナンス⑨民社党の歴史・百折不撓などを具体的に考え受講します。

第三回目は、福岡県福岡市市議会会館(福岡市)にて開催。福岡市議会議員の近藤里美氏(ダイエーユニオン OG)から「議会報告と政治をフィルターにした労働運動」を受講。続いて同ユニオンのOBである長嶋良昭氏(現・UA ゼンセン福岡県支部次長)と花田雅祐生氏(現・連合福岡副事務局長)の両名から「私の歩み」と題し、それぞれの労働運動の考え方を講演して戴きました。その後夕食懇談会でも一層の懇親と知識を深めました。最後に「労使関係の考え方・コーポレートガバナンス」を受講。「労使関係に一体はない。初めから協調があるものでもない。健全な対立の下に、健全な労使関係が生まれ、労使協調が生まれる。」ことを学んだ。各講義の中では、質問も活発で、また日ごろの労働組合活動での疑問など幅広く探求した様子でした。

5. 4/18(金) 団体見学・UA ゼンセン総合サービス部門・大阪ガス労働組合 8名

4月18日(金)、UA ゼンセン総合サービス部門・大阪ガス労働組合の8名が、講演受と展示見学をしました。常設展示「日本労働運動の100年余」を解説。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を聴く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。その後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学した。皆さんとっても熱心に受講し見学をしました。

6. 4/21(月) 団体見学・JAM 秋田県南地域協議会 7 名

4 月 21 日(月)、JAM 秋田県南地協の 7 名が、常設展示「日本労働運動の 100 年余」を見学。安部解説員の言葉に耳を傾け、大変熱心に時間をかけて見学した様子でした。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL 050-3473-5325

E メール yuairodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

-----惟一館から 130 年、友愛会から 112 年-----